

表千家北山会館
開館30周年記念特別展
特別協力 北村美術館

わび と 数寄

—受け継がれる利休の心—

2024年9月13日〔金〕—12月15日〔日〕（展示替えあり）
前期展示 9月13日〔金〕—10月29日〔火〕 後期展示 11月1日〔金〕—12月15日〔日〕

表千家北山会館
京都市北区上賀茂桜井町61番地



Instagram

第1部 室町時代～安土桃山時代

1. 仏教と茶の湯 珠光

- 1 伝聖武天皇宸翰 大和切 北村美術館蔵 [前期]
- 2 重要文化財 光明皇后五月一日経(莊嚴菩提心経) 北村美術館蔵 [後期]
- 3 鍍金火舎香炉 高野山正智院伝来 北村美術館蔵
- 4 練行衆盤「大導師永仁六年蓮仏造」銘 北村美術館蔵
- 5 大燈国師筆 一帆風 個人蔵
- 6 唐物 驢蹄口茶入 添唐物盆 北村美術館蔵
- 7 随流斎筆 珠光「心の文」写
- 8 珠光寄竹手桶水指 利休在判
- 9 象牙茶杓

2. 和歌と茶の湯 武野紹鷗

- 10 伝紀貫之筆 高野切 藤の花 北村美術館蔵 [前期]
- 11 伝藤原行成筆 伊予切 鶯 北村美術館蔵 [後期]
- 12 沃懸地青貝菊花文錫縁香合 北村美術館蔵
- 13 良祐筆 春日懷紙 北村美術館蔵
- 14 古瀬戸茶碗 北村美術館蔵
- 15 三条西実隆筆 書状 個人蔵
- 16 信楽水指 個人蔵
- 17 西村道仁作 大黒釜 北村美術館蔵
- 18 武野紹鷗作 茶杓

3. わび茶の大成 千利休

- 19 千利休作 竹一重切花入 利休在判 [前期]
- 20 千利休所持 真塗手桶水指 [後期]
- 21 古溪宗陳筆 利休居士号賀頌
- 22 千利休所持 長次郎作黒茶碗 銘禿
- 23 利休大棗 利休在判
- 24 千利休作 共筒茶杓

第2部 江戸時代初期～中期

1. 千利休の茶の継承

- 25 千少庵筆書状 千道安宛 五月雨の文
- 26 黒織部杢形茶碗 北村美術館蔵 [前期]
- 27 少庵好 丸釜 公用の文字
- 28 重要文化財 織部松皮菱手鉢 北村美術館蔵 [後期]
- 29 藪内剣仲作 茶杓 個人蔵

2. 三千家とその周辺

- 30 元伯宗旦筆 茶湯的伝
- 31 江岑宗左作 共筒茶杓 銘梅尾
- 32 仙叟宗室作 共筒茶杓 銘一笑 北村美術館蔵
- 33 一翁宗守作 茶杓 直齋宗守筒 個人蔵
- 34 元伯宗旦好 一閑張棗 初代一閑作
- 35 東福門院より元伯宗旦拝領 貝桶、貝合わせ香合

3. 武家茶道の確立

- 36 藤原定家筆 桜ちるの文 北村美術館蔵
- 37 油滴天目茶碗 芙蓉台添 北村美術館蔵 [前期]
- 38 歌絵蒔絵小硯箱 北村美術館蔵 [前期]
- 39 御本立鶴茶碗 北村美術館蔵 [後期]
- 40 小堀遠州作 茶杓 贈筒 権左衛門 北村美術館蔵 [後期]
- 41 千道安筆 茶湯道歌
- 42 瀬戸米市手茶入 片桐石州より江岑宗左拝領
- 43 片桐石州作 共筒茶杓 個人蔵

4. 禁裏・公家の茶の湯

- 44 後水尾院宸翰 [前期]
- 45 後西院宸翰 [後期]
- 46 金森宗和作 共筒茶杓 [前期]
- 47 常修院慈胤法親王宮作 茶杓 北村美術館蔵 [後期]
- 48 尾形乾山作 檜梅香合 北村美術館蔵 [前期]
- 49 重要文化財 野々村仁清作 色絵鱗波紋茶碗 北村美術館蔵 [後期]
- 50 近衛予樂院所持 唐物手付籠写 北村美術館蔵

第3部 江戸時代中期～幕末

1. 利休への回帰―古風と新風―

- 51 覚々斎筆 一行「心外無別法」〔前期〕
 52 覚々斎筆 桜狂歌入り文 千代宛 〔後期〕
 53 久田宗全作 籠花入 半床庵文化財団蔵
 54 樂宗入作 黒茶碗 覚々斎銘三井晚鐘 〔前期〕
 55 覚々斎手造 赤茶碗 団子の絵 流芳五十の内 〔後期〕
 56 覚々斎好 老松割蓋茶器
 57 覚々斎作 共筒茶杓 句銘「初雪や心ばかりの茶の湯かな」
 58 如心斎筆 発句「ふるとし祖堂を…」 〔前期〕
 59 如心斎筆 発句「光陰如箭」 〔後期〕
 60 如心斎好 稲塚切花入 〔前期〕
 61 如心斎手造 黒茶碗 銘 饅頭 〔後期〕
 62 如心斎好 嶋台茶碗 樂長入作
 63 如心斎好 ツボツボ大棗
 64 無学宗衍筆 七事式 啐啄齋在判 〔前期〕
 65 如心斎好 堀内仙鶴筆 曳舟の画 風炉先屏風 〔後期〕
 66 七事式の道具
 67 利休忌茶カブキ之控 〔前期〕
 68 如心斎筆 茶会記 〔後期〕

2. 大名によるわびと数寄の融合

- 69 虎蒔絵硯箱 徳川治宝より了々斎拝領
 70 偕楽園製 寿の字水指 徳川治宝より吸江斎拝領
 71 碌々斎筆 既望棗十六銘 北村美術館蔵
 72 碌々斎好 既望棗 銘万頃 〔前期〕
 73 碌々斎好 既望棗 銘美人 北村美術館蔵 〔後期〕
 74 偕楽園製 瑠璃釉耳付花入 紀州徳川家より碌々斎拝領
 75 中興名物 瀬戸金華山茶入 銘広沢 北村美術館蔵
 76 松平不昧筆 広沢茶入添状 北村美術館蔵 〔前期〕
 77 松平不昧筆 「山里」二字 個人蔵 〔後期〕
 78 高台寺蒔絵棗 余三作 北村美術館蔵 〔前期〕
 79 松平不昧好 大菊蒔絵棗 銘山路 原羊遊齋作 北村美術館蔵 〔後期〕
 80 松平不昧作 共筒茶杓 伊佐幸琢とのへ 個人蔵
 81 茶湯一会集写本 三浦義太郎写 彦根城博物館蔵 9月13日～10月12日展示
 82 井伊直弼好 月次茶器 個人蔵
 一月～四月 9月13日～10月12日展示
 五月～八月 10月13日～11月10日展示
 九月～十二月 11月12日～12月15日展示
 83 喫茶十徳蒔絵香合 彦根城博物館蔵 10月13日～11月10日展示
 84 井伊直弼作 楽焼柳図茶碗 彦根城博物館蔵 11月12日～12月15日展示

第4部 近代

1. 千家・数寄者・公家の茶―三井家による明治天皇への献茶―
 - 85 献茶の席図 三井文庫蔵
 - 86 明治天皇献茶会記 碌々齋筆 三井記念美術館蔵
 - 87 赤地金欄手鳳凰文天目 永樂和全作
 - 88 梅木地銀縁天目台 銀縁 中川淨益作 三井記念美術館蔵
 - 89 小倉色紙「うかりける…」 藤原定家筆 三井記念美術館蔵 [前期]
 - 90 竹置筒花入 銘正行 碌々齋作 三井記念美術館蔵 [前期]
 - 91 日の丸釜 伝辻与次郎作 三井記念美術館蔵
 - 92 色絵鶏香合 野々村仁清作 三井記念美術館蔵
 - 93 祥瑞松竹梅花鳥文胴締水指 三井記念美術館蔵
 - 94 青磁遊鐙柄杓立 三井記念美術館蔵
 - 95 備前胴紐建水 三井記念美術館蔵
 - 96 椎頭火箸 中川淨益作 三井記念美術館蔵
 - 97 開山五徳蓋置 伝紹鷗所持 三井記念美術館蔵
 - 98 中興名物 瀬戸肩衝茶入 銘二見 三井記念美術館蔵
 - 99 竹茶杓 伝千利休作 共筒 三井記念美術館蔵

2. 近代数寄者の茶の湯

- 100 益田鈍翁筆 和歌色紙 個人蔵 [前期]
- 101 塩原堅手茶碗 益田鈍翁箱書 個人蔵
- 102 黒漆鼓胴花入 原三溪旧蔵 東大寺彫銘 北村美術館蔵
- 103 松永耳庵筆 乾坤一擲 福岡市美術館蔵 [後期]
- 104 珠数文蒔絵八角沈箱 松永耳庵所持 福岡市美術館蔵
- 105 益田鈍翁茶会記
- 106 惺齋好 吹寄の絵茶碗 樂惺入作 個人蔵
- 107 惺齋好 吹寄蒔絵真手桶水指 中村宗哲作

3. 家元と近代数寄者

- 108 即中齋筆「凡聖同居龍蛇混雜」 北村謹次郎筆 茶碗・茶杓の画 北村美術館蔵
- 109 正倉院二彩断片呼継 大の字茶碗 銘東大寺 北村美術館蔵
- 110 桑港(サンフランシスコ)製朝鮮唐津写水指 宗哲塗蓋 北村美術館蔵
- 111 カナダ製 インディアンポテトチップ入れ 北村美術館蔵
- 112 北村謹次郎筆 花鳥の絵皿 北村美術館蔵
- 113 即中齋手造 黒茶碗 銘雪間草

展示に関連する人物

珠光（しゆこう）

一四二三～一五〇二 茶人。奈良に生まれ、一休宗純に禅を学び、悟りを開いた証として「正直に慎み深く奢らぬさまをわびという」と語り、珠光のわびを深めた。和歌、連歌を学び、その心と美意識を茶の湯に取り入れた。

武野紹鷗（たけのじょうおう）

一五〇二～一五五 茶人。号は大黒庵。堺の豪商の家に生まれ、名物道具を多く所持したが、「正直に慎み深く奢らぬさまをわびという」と語り、珠光のわびを深めた。和歌、連歌を学び、その心と美意識を茶の湯に取り入れた。

千利休（せんりのきゆう）

一五二二～一九一 茶人。道号は宗易。堺に生まれる。珠光を深く慕い、武野紹鷗に茶の湯を学んだ。織田信長、豊臣秀吉の茶堂もつとめ、天下一の茶人と称された。

千少庵（せんしょうあん）

一五四六～一六一四 千利休の養子で、千家2代家元。利休の自刃後、会津の蒲生氏郷のもとに身を寄せるが、秀吉から帰京を許され、息子の元伯宗旦とともに千家を再興した。

千道安（せんどうあん）

一五四六～一六〇七 利休の実子。堺の屋敷と家業を継承。利休の自刃後、飛騨高山に逃れ、金森出雲守可重（宗和の父）に茶の湯を教えたと伝えられる。その後、許されて豊臣秀吉の茶堂をつとめた。

古田織部（ふるたおりべ）

一五四三～一六一五 数寄大名。「利休七哲」の一人。利休亡きあと天下一の茶人となり、徳川二代将軍秀忠の茶道指南をつとめる。織部の好んだ道具は「破格の美」といわれる。

藪内劍仲（やぶのうちけんちゆう）

一五三六～一六二七 藪内家の祖。武野紹鷗の弟子で、利休の弟弟子。妻は織部の妹で、織部より茶室「燕庵」を譲り受けた。

元伯宗旦（げんぱくそうたん）

一五七八～一六五八 千家三代家元。少庵の子。生涯、茶堂として仕官することはなかったが、大名・武士、禁裏・公家、禅僧らと幅広い交流を持ち、「宗旦四天王」をはじめ多くの弟子を持った。

江岑宗左（こうしんそうさ）

一六一三～七二 元伯宗旦の三男で、表千家四代家元。千家の家督を相続し、表屋敷の不審菴を継承。表千家の基礎を固めた。紀州徳川家に茶堂として出仕。

仙叟宗室（せんそうそうしつ）

一六二二～九七 元伯宗旦の四男で、裏千家四代家元。元伯が不審菴の裏に建てた隠居屋敷の今日庵を継承。裏千家の基礎を固めた。加賀前田家に茶堂として出仕。

一翁宗守（いちおうそうしゆ）

一六〇五～七六 元伯宗旦の二男で、武者小路千家四代家元。武者小路通に新たに官休庵を興し、武者小路千家の基礎を固めた。高松松平家に茶堂として出仕。

小堀遠州（こぼりえんしゆう）

一五七九～一六四七 数寄大名。古田織部に茶の湯を学び、徳川三代将軍家光の茶道指南をつとめた。寛永文化の時代にあつて、その茶風は「綺麗さび」と呼ばれる。

片桐石州（かたぎりせきしゆう）

一六〇五～七三 数寄大名。千道安の弟子、桑山宗仙に茶の湯を学ぶ。遠州のあと、徳川将軍家の茶道指南をつとめ、武家茶道を確立。元伯宗旦、江岑宗左とも深く交わった。

金森宗和（かなもりそうわ）

一五八四～一六五八 茶人。金森可重の子に生まれ、茶の湯は道安の流れをくむ。京都で剃髪し、織部、遠州に茶を学んだ。その茶風は「姫宗和」と称され、禁裏・公家の茶の湯に大きな影響を与えた。

後水尾天皇（ごみずのおてんのう）

一五九六～一六八〇 後陽成天皇の第三皇子。禁裏・公家を中心に花開いた寛永文化の中心的存在であった。学問をよくし、和歌、立花、茶の湯に深く親しんだ。

東福門院（とうふくもんいん）

一六〇七～七八 徳川二代将軍秀忠の娘和子（まさこ）。後水尾天皇の皇后。茶の湯を好み、元伯宗旦に好みの道具制作を依頼するなど、千家とも深い親交があった。

常修院宮慈胤法親王

（じょうしゅういんのみや じいんほつしんのう）

一六一七～一七〇〇 後陽成天皇の第十六皇子で、後水尾天皇の弟。天台座主。金森宗和に茶の湯を学び、禁裏・公家の茶の湯に重きをなした。三菩提院宮真敬法親王に真台子を伝授。

後西天皇（ごさいてんのう）

一六三八～八五 後水尾天皇の第七皇子。常修院宮に茶の湯を学び、その催した茶会は『後西院御茶湯之記』として伝わる。江岑宗左に竹の花入や茶杓を所望するなど、千家のわび茶にも深く心を寄せた。

近衛予樂院（このえよろくいん）

一六六七～一七三六 五摂家の筆頭である近衛家二二代当主。名は家熙。常修院宮に茶の湯を学んだ。予樂院の言行録『槐記』（侍医の山科道安筆）、三〇〇会をこえる自会の記録『御茶湯之記』が伝わる。

覚々齋（かくかくさい）

一六七八～一七三〇 表千家六代家元。久田宗全の長男で、表千家五代家元随流齋（久田宗全の弟）の養子。茶の湯人口が増大するなか、時代に応じた新たな茶の湯を展開した。

久田宗全（ひさだそうぜん）

一六四七～一七〇七 久田家半床庵三代。元伯宗旦の娘くれと久田宗利の長男。弟は表千家五代家元の随流齋、長男は表千家六代家元の覚々齋。表千家を支え、利休の茶の継承と普及につとめた。

如心齋（じょしんさい）

一七〇五～五一 表千家七代家元。覚々齋の長男。三千家における一子相伝を定め、家元制度の基礎を築く。茶道人口の増加にともない、新たな稽古法である「七事式」を考案した。

竺叟宗乾（ちくそうそうけん）

一七〇九～三三 裏千家七代家元。覚々齋の二男で、裏千家六代家元六閑齋泰叟宗安の養子となったが、若くして没している。

一燈宗室（いっとうそうしつ）

一七一九～七一 裏千家八代家元。覚々齋の三男で、兄の竺叟宗乾亡きあと裏千家に入った。如心齋とともに「七事式」を考案し、千家の茶の普及につとめた。

堀内仙鶴（ほりのうちせんかく）

一六七五～一七四八 茶人。堀内家長生庵の初代。江戸の儒学者を学び、俳諧師であったが、覚々齋の弟子となり、表千家の茶を支えた。覚々齋の俳諧の師でもある。

川上不白（かわかみふはく）

一七一九～一八〇七 茶人。如心齋に茶の湯を学び、江戸で千家の茶を広めた。不白が残した『不白筆記』には、如心齋をはじめ、千家の茶の教えが詳しく記されている。

松平不味（まつだいらふまい）

一七五一〜一八一八 数寄大名。雲州松江藩七代藩主。名は治郷（はるさと）。『雲州蔵帳』には、不味の蒐集した多くの名物道具が記載されている。『古今名物類聚』を刊行し、茶道具の研究と保全に力を尽くした。

井伊直弼（いいなおすけ）

一八一五〜一八六〇 数寄大名。彦根藩一六代藩主。幕府の元老。利休の茶の精神に回帰し、『茶湯一会集』を著した。「一期一会」をはじめ「独座観念」、「余情残心」などの理念を大切にした。

徳川治宝（とくがわはるとみ）

一七七一〜一八五三 数寄大名。紀州藩一〇代藩主。茶の湯に深く親しみ、「数寄の殿様」と呼ばれた。茶堂であった表千家九代家元了々斎、一〇代家元吸江斎と深い交わりを結び、了々斎より皆伝を授けられた。

了々斎（りょうりょうさい）

一七七五〜一八二五 表千家九代家元。徳川治宝の要請によって頻繁に稽古をおこない、茶の湯の深い交わりを持った。治宝の家元への御成を迎えている。

吸江斎（きゅうこうさい）

一八一八〜一八六〇 表千家一〇代家元。幼少の頃に了々斎が没したため、徳川治宝より皆伝を授けられ、表千家の茶の正脈が途絶えることなく受け継がれた。

三井高朗（みついたかあき）

一八三七〜一九四 数寄者。三井総領家（北家）九代。八郎右衛門を襲名。三井財閥を発展に導き、財界に重きをなす。表千家の茶の湯を学んだ。

三井高棟（みついたかみね）

一八五七〜一九四八 数寄者。三井総領家（北家）一〇代。八郎右衛門。三井合名会社社長。表千家一一代家元の碌々斎に入門し、茶の湯に深く親しんだ。

碌々斎（ろくろくさい）

一八三七〜一九一〇 表千家二代家元。各流の家元と協力して茶道の地位向上につとめ、数寄者と積極的に関わり、全国への茶道普及に尽力した。

惺斎（せいさい）

一八六三〜一九三七 表千家二代家元。明治、大正、昭和のはじめにかけて、近代数寄者とも幅広い交流を持ち、茶道復興に向けて力を尽くした。

益田鈍翁（ますだどんおう）

一八四七〜一九三八 数寄者。名は孝。三井物産の創設と発展に貢献した財界人。多くの茶道具や古美術を蒐集し、近代最大の数寄者といわれる。大師会を主催。碌々斎、惺斎を茶の湯に招いた記録も残る。

原三溪（はらさんけい）

一八六八〜一九三九 数寄者。名は富太郎。横浜の生糸貿易商として財閥を築いた。横浜本牧に広大な三溪園を築き、仏教美術や多くの茶道具を蒐集した。近代美術の庇護者でもある。

松永耳庵（まつながじあん）

一八七五〜一九七一 数寄者。名は安左工門。「電力の鬼」の異名をとった財界人。六〇歳から茶の湯をはじめ、幅広い世代の数寄者と交わった。『茶道三年』、『わが茶日夕』などの著作がある。

即中斎（そくちゅうさい）

一九〇一〜一九七九 表千家三代家元。即中会をはじめ数寄者、社中との会が発会し、多様な交流を築いた。また、茶事に多くの数寄者、門人を招いている。

北村謹次郎（きたむらきんじろう）

一九〇四〜一九九一 数寄者。惺斎に入門。京都鴨川畔の一角に「四君子苑」を営む。隣接する北村美術館には、蒐集した茶の湯の道具、仏教美術などの幅広い収蔵品がある。

地階 特別映像

わびと数寄 不審菴、四君子苑へのいざない

(10時より、30分ごとに繰り返し上映しております。約26分)

数年にわたり撮影を行った家元の露地・建物や四君子苑の移り行く季節を、
道具組や様々な露地の風景とともにご覧いただけます。

※11月28日「木」は上映がございません。

館内閲覧映像のご案内

展示を楽しむ

- ◎ わびと数寄―受け継がれる利休の心―イメージ映像(約6分)
- ◎ 特別映像 わびと数寄 不審菴、四君子苑へのいざない(約26分)
- ◎ 床飾りの楽しみ(約34分)
- ◎ 茶掛けの味わいと楽しみ(約32分)
- ◎ 千家十職各家の仕事(約13分)

表千家不審菴

- ◎ 不審菴(約35分)
- ◎ 京都表千家茶の湯歳時記(約30分)

茶の湯への誘い

- ◎ 日常のお茶(約5分)
- ◎ 道具に親しむ(約4分)
- ◎ 千利休の茶の湯(約6分)
- ◎ 茶事(「こころ」と「かたち」)(約11分)

三階書籍コーナー設置のタブレットのほか、
ご自身のスマートフォン等でも、ご自由に映像
をご覧いただくことができます。



PASSWORD
guest123

NETWORK
GUEST



SCAN TO CONNECT

閲覧パスワード
Omosen2024